

決算説明資料

2022年3月期 第2四半期

株式会社ユビキタスAIコーポレーション

代表取締役社長 長谷川 聡

2021年11月12日

Index

- 第2四半期業績 概要
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第2 四半期業績 概要

第2四半期（累計期間）概況

業 績

- 21/3期比で売上高・営業利益ともに増加
- 20/3期比では、半導体不足等による自動車減産などコロナ禍の影響により、売上高は回復せずも、営業利益は微増（のれん償却額を勘案した営業利益としては減少）
 - 連結売上高 : 913百万円 (21/3同期比 : 15.2%増 20/3同期比 : 15.8%減)
 - 連結営業損失 : 30百万円 (21/3同期 : 営業損失 212百万円 20/3年同期 : 営業損失 40百万円)

セグメント別概況

ソフトウェア プロダクト事業	売上高 営業利益	332百万円 78百万円	高速起動は車載機器関連のロイヤルティ売上が減少、コネクティ ビティ&セキュリティは車載機器関連の大口案件を獲得したこと で対前年同期比で売上増
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高 営業損失	427百万円 127百万円	既存顧客からのロイヤルティ売上減少により対前年同期比で売上 減
ソフトウェア サービス事業	売上高 営業損失	152百万円 18百万円	車載機器関連のコンテンツライセンスが増加、受託開発案件も 順調に推移し、対前年同期比で売上増

セグメント利益 算定方法変更

■ ユビキタスAIコーポレーションの2事業のセグメント利益算定方法を変更

- 経緯
 - 旧株式会社エーアイコーポレーション合併（18年7月）以降、共通部門の一本化を推進
- 変更内容
 - 配賦比率：22年3月期の期初予算における売上・粗利等を考慮し、配賦比率を1：1へ
 - 対象：共通部門費用－営業部門、マーケティング&コミュニケーション部門、管理部門の人件費及び部門費用

■ セグメント利益算定方法変更による影響額

(単位：百万円)

		22/3期 2Q			21/3期 2Q			増減額		20/3期 2Q			増減額	
		従前の 収支	共通 部門費 を変更	新収支	従前の 収支	共通 部門費 を変更	新収支	従前の 収支	新収支	従前の 収支	共通 部門費 を変更	新収支	従前の 収支	新収支
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	332		332	218		218	114	114	295		295	36	36
	セグメント利益	56	21	78	△41	22	△19	98	97	16	30	46	40	31
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	427		427	439		439	△11	△11	617		617	△189	△189
	セグメント利益	△105	△21	△127	△76	△22	△99	△29	△28	27	△30	△2	△133	△124
ソフトウェアサービス事業	売上高	152		152	135		135	17	17	171		171	△18	△18
	セグメント利益	18		18	10		10	7	7	20		20	△2	△2

(注) 21/3期及び20/3期のセグメント利益は、比較利便性を考慮して、のれん償却前営業利益を表示し、配賦比率も22/3期と同率として算定しております。

前年同期比:セグメント及び製品分野別売上高

(単位:百万円)

セグメント	分野	22/3期 2Q (連結)	21/3期 2Q (連結)	増減率	20/3期 2Q (連結)	増減率
ソフトウェア プロダクト事業	コネクティビティ&セキュリティ	107	25	330.8	72	48.9
	高 速 起 動	177	158	11.9	189	△6.4
	デ ー タ ベ ー ス	46	34	37.5	33	40.3
	小計	332	218	52.5	295	12.4
ソフトウェアディストリビューション事業		427	439	△2.5	617	△30.7
ソフトウェアサービス事業		152	135	12.7	171	△10.7
合計		913	792	15.2	1,084	△15.8

前年同期比:セグメント別売上及び利益

(単位: 百万円)

		22/3期 2Q (連結)	21/3期 2Q (連結)	増減額	20/3期 2Q (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	332	218	114	295	36
	セグメント利益	78	△19	97	46	31
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	427	439	△11	617	△189
	セグメント利益	△127	※1 △152	24	※1 △55	△71
ソフトウェアサービス事業	売上高	152	135	17	171	△18
	セグメント利益	18	※2 △41	59	※2 △31	△28
合計	売上高	913	792	120	1,084	△171
	セグメント利益	△30	※3 △212	181	※3 △40	9

(注) ※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 53百万円を含めております。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 51百万円を含めております。

※3 上記ののれんの償却額 105百万円を含めております。

前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前利益

(単位:百万円)

		22/3期 2Q (連結)	21/3期 2Q (連結)	増減額	20/3期 2Q (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	332	218	114	295	36
	セグメント利益	78	△19	97	46	31
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	427	439	△11	617	△189
	セグメント利益	△127	※1 △99	△28	※1 △2	△124
ソフトウェアサービス事業	売上高	152	135	17	171	△18
	セグメント利益	18	※2 10	7	※2 20	△2
合計	売上高	913	792	120	1,084	△171
	セグメント利益	△30	※3 △107	76	※3 64	△95

(注) 22/3期との比較利便性を考慮し、

※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 53百万円を含めておりません。

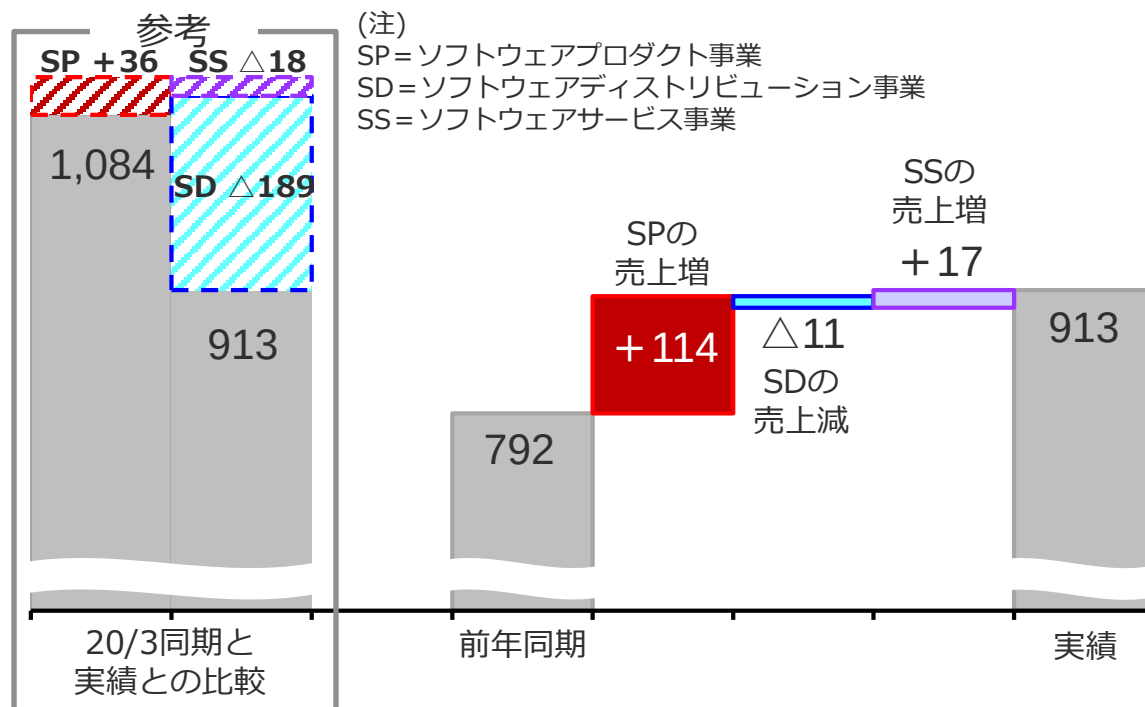
※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 51百万円を含めておりません。

※3 上記ののれんの償却額 105百万円を含めておりません。

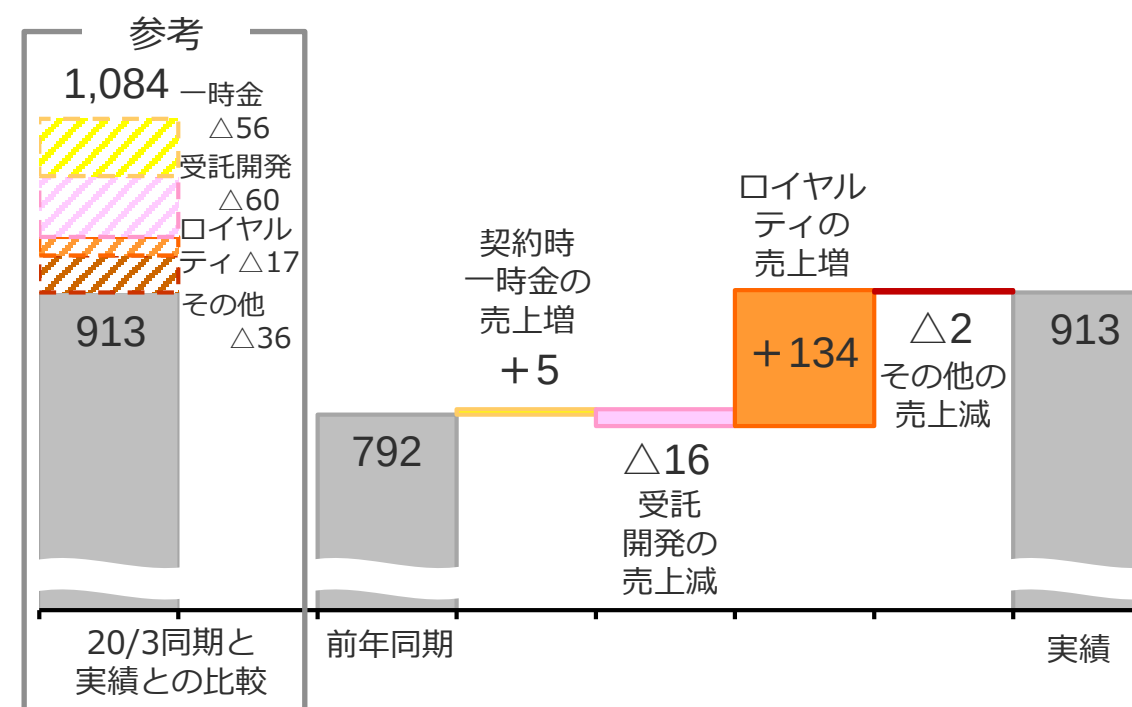
前年同期比：売上高

(単位：百万円)

事業別



形態別

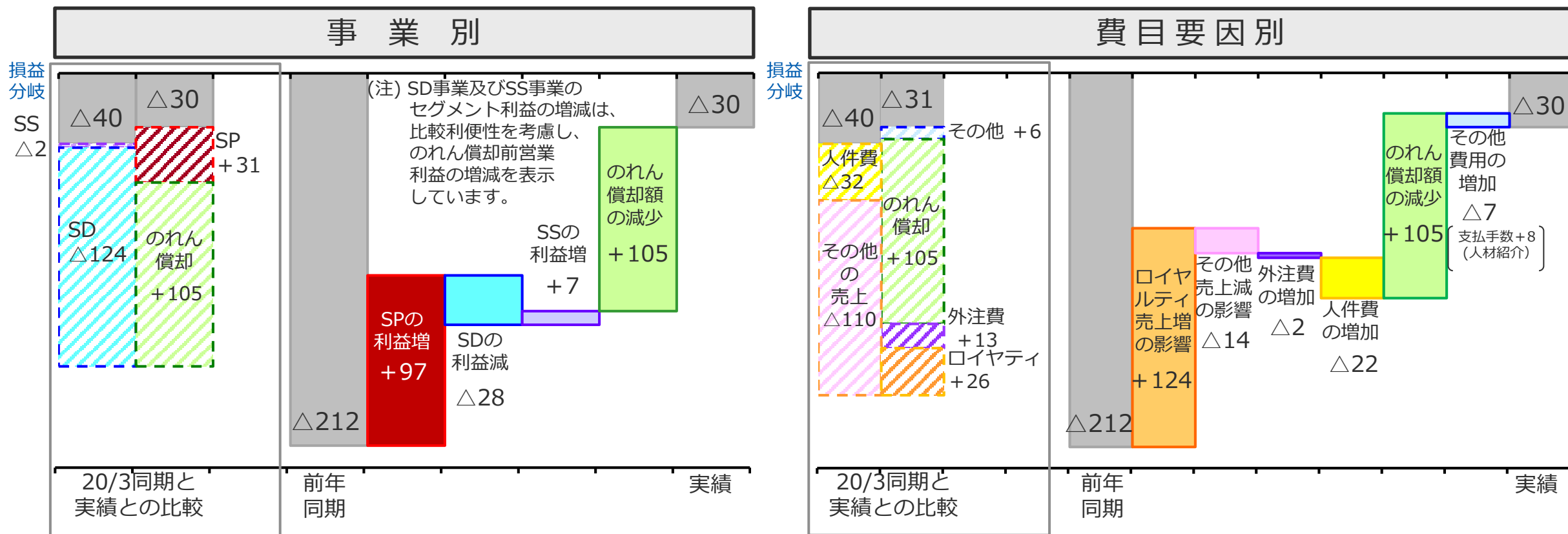


■売上高：21/3期比は増加となるも、コロナ禍前の20/3期の水準までは回復せず

- SP事業：高速起動は主に車載機器関連、データベースは産業系のロイヤルティが前年増となるも、20/3期までは回復せず
コネクティビティ&セキュリティ関連で車載機器関連の個別大口案件（前払ロイヤルティ）獲得により20/3期を上回る
- SD事業：ワイヤレス製品ではロイヤルティ売上が前年増となるも、PC関連等のロイヤルティが減少し、前年を下回る
- SS事業：主に車載機器関連の個別案件によるコンテンツライセンス、及び受託開発案件が前年増となるも、20/3期の水準までは回復せず

前年同期比：営業利益

(単位：百万円)



■ 21/3期比は大幅増加、コロナ禍前の20/3期比は微増

- 主にSP事業のロイヤリティ売上増加、及びのれん償却終了により、営業利益が前年大幅増となるも、その他売上減の影響を受けて20/3期に対しては微増、但しのれん償却額を勘案した額としては減少

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2022/3期 2Q	2021/3期 2Q	増減	2020/3期 2Q	増減
売上高	913	792	120	1,084	△171
売上原価	493	482	10	602	△109
売上総利益	419	310	109	481	△62
販管費	450	522	△72	522	△71
営業利益	△30	△212	181	△40	9
営業外損益	7	2	4	2	4
経常利益	△23	△210	186	△37	14
特別損益	-	-	-	-	-
法人税等	0	15	△14	16	△15
四半期純利益※	△24	△225	201	△54	29

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

	2021/9月末	2021/3月末	増減
現金・預金	878	828	49
受取手形・売掛金	-	676	△676
受取手形・売掛金・契約資産	451	-	451
有価証券	900	800	100
棚卸資産	21	5	15
前払費用	45	46	△1
その他流動資産	32	56	△24
流動資産	2,328	2,414	△86
固定資産	422	393	29
資産合計	2,751	2,807	△56

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

	2021/9月末	2021/3月末	増減
買掛金	84	131	△46
未払金	32	47	△14
前受金	-	73	△73
契約負債	73	-	73
その他流動負債	62	46	16
流動負債	253	298	△44
固定負債	79	80	△1
資本金	1,483	1,483	-
資本剰余金	1,453	1,453	-
利益剰余金	△610	△586	△24
その他純資産	92	78	13
純資産	2,418	2,429	△10
負債・純資産合計	2,751	2,807	△56

通期業績予想（連結）に対する進捗

（単位：百万円）

	通期 業績予想	第2四半期 実績	進捗率（%）
売上高	2,196	913	41.6
営業利益	80	△30	—
経常利益	80	△23	—
純利益	57	△24	—

コロナ禍による当社業績への影響（車載機器関連）

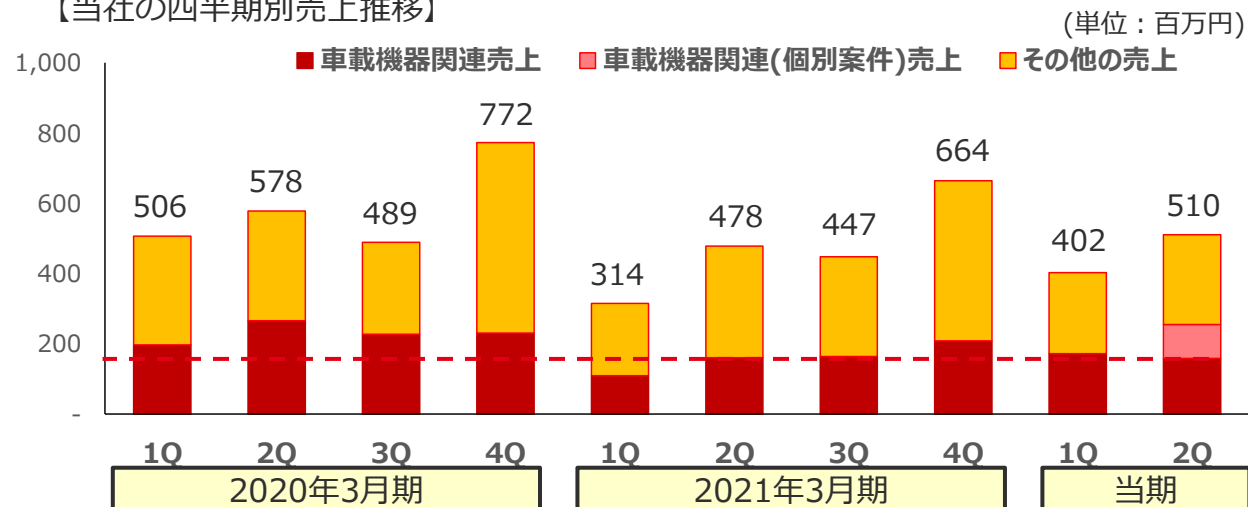
■ 自動車販売への影響

- 2020年4月を底として、同年9月には前年同月比プラスへ
- 2021年初より半導体不足に伴う減産が顕在化
- アジアでの新型コロナ感染再拡大に伴う部品供給減少の影響も加わり、同年7月～前年同月比マイナスへ

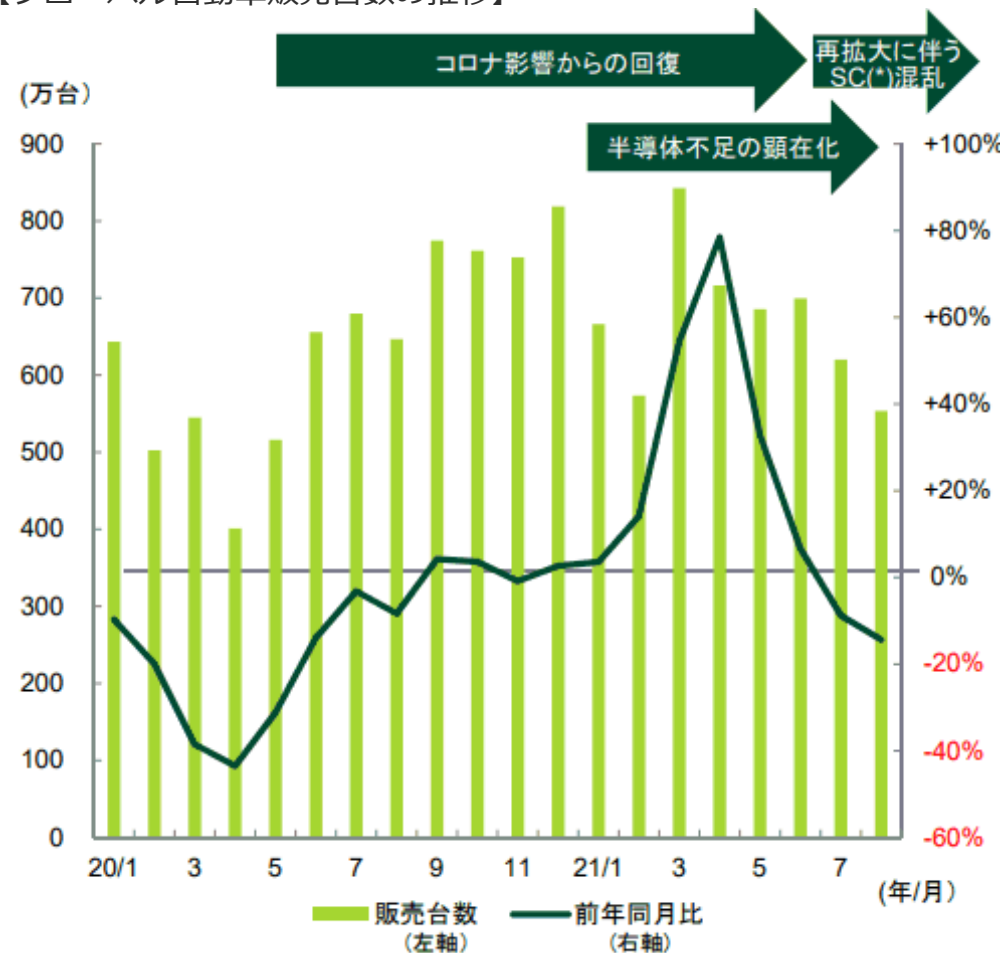
■ 当社の売上に与える影響

- 当四半期において、自動車販売台数の減少に伴い、車載機器向け搭載製品の後払いロイヤリティ売上が減少、第三四半期以降も自動車販売状況に応じ影響が発生する

【当社の四半期別売上推移】



【グローバル自動車販売台数の推移】



(※)サプライチェーン

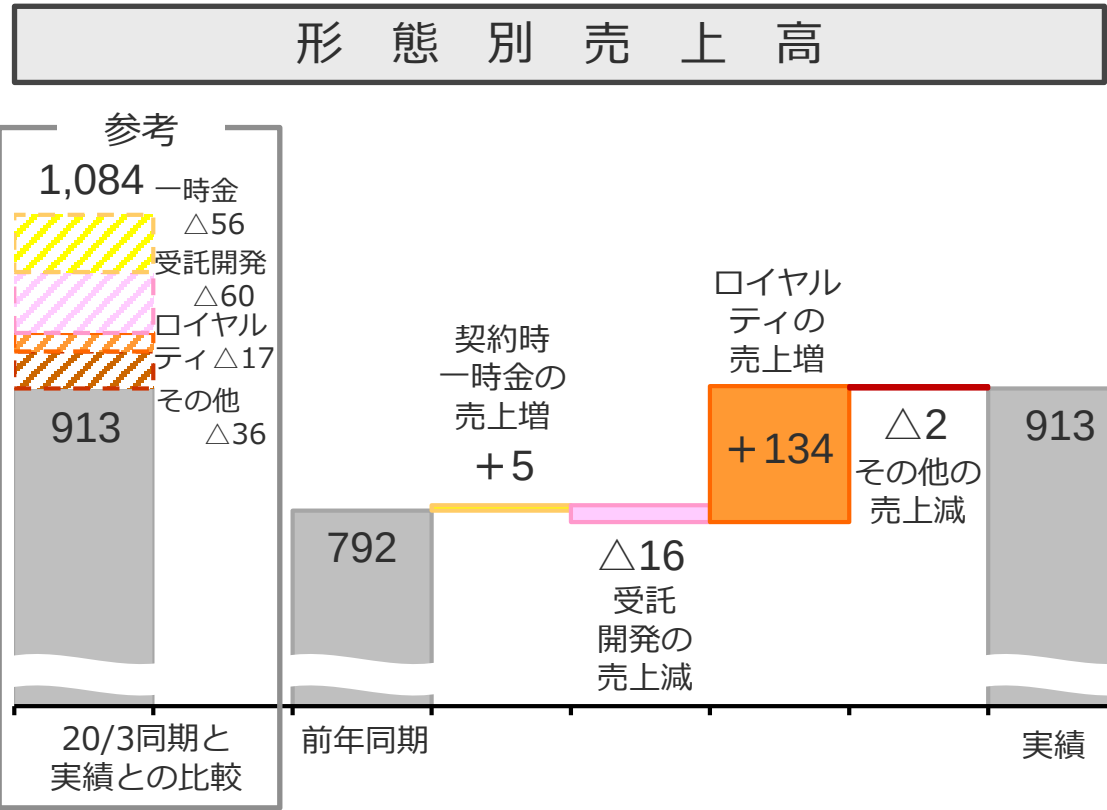
出典：三井住友銀行「半導体の供給不足が自動車産業に与える影響」

コロナ禍による当社業績への影響（新規案件）

（単位：百万円）

■ 新規案件獲得の状況

- 当第2四半期の新規案件売上は、前年同期を僅かに上回ったものの、2020年3月期の水準には未だ回復していない
- 新規問い合わせ・引き合い自体は増加基調にあり、引き続き今期の計画達成に向けて取組み中



セグメント及び 製品分野別動向と取り組み

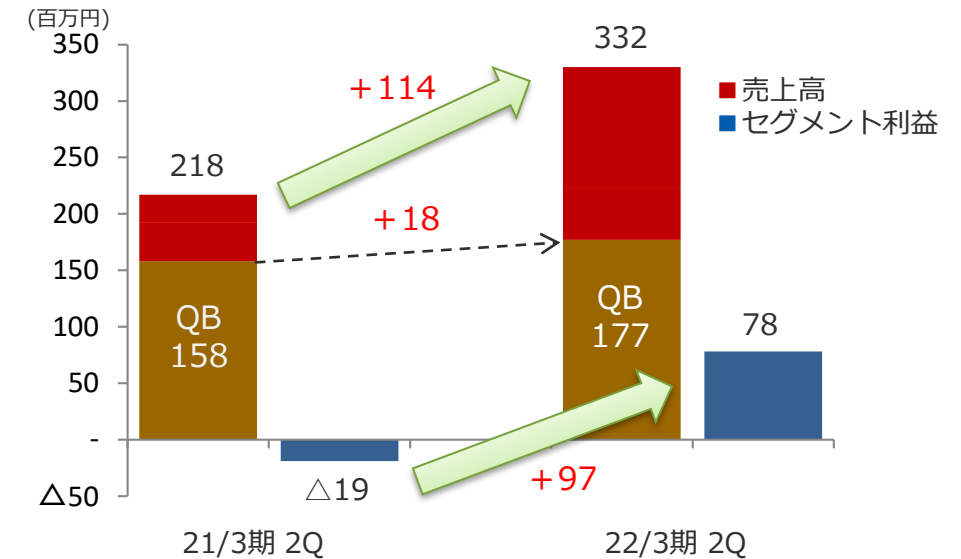
ソフトウェアプロダクト事業 高速起動関連

■ 当四半期概況

- ・国内外の車載機器関連、海外民生機器の既存顧客からのロイヤルティ売上を計上
- ・カーナビ等車載向け機器を中心に複数社との間で大・中規模の開発案件が継続中

■ 取組方向性

- ・海外市場向けの販売を強化
- ・車載情報端末以外の車載機器向けの拡販を強化
- ・電源断対応ファイルシステムや仮想化技術、セキュアブート等の機能を組み合わせ、高付加価値ソリューション化、クロスセルを推進
- ・次世代技術開発の継続



(注) グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、高速起動関連のみの売上・利益です。



コネクティビティ & セキュリティ関連

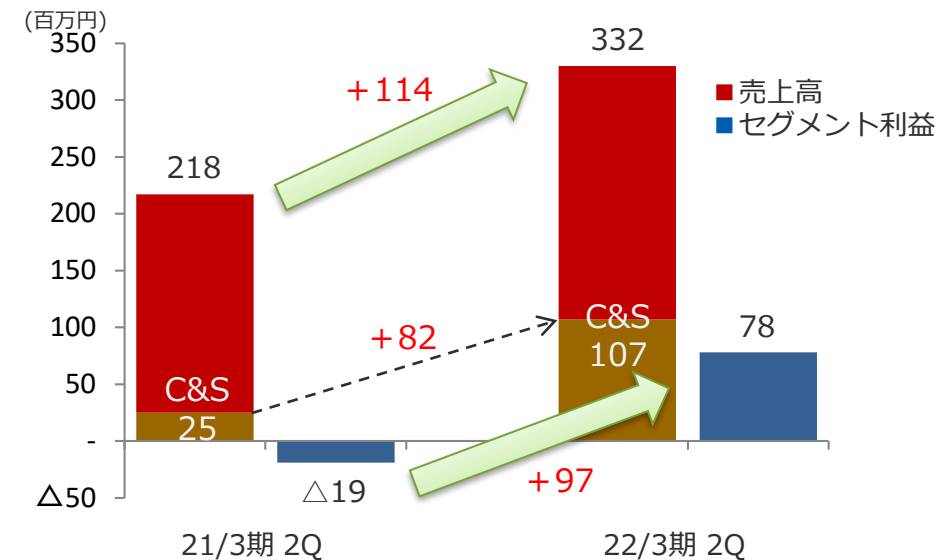


■ 当四半期概況

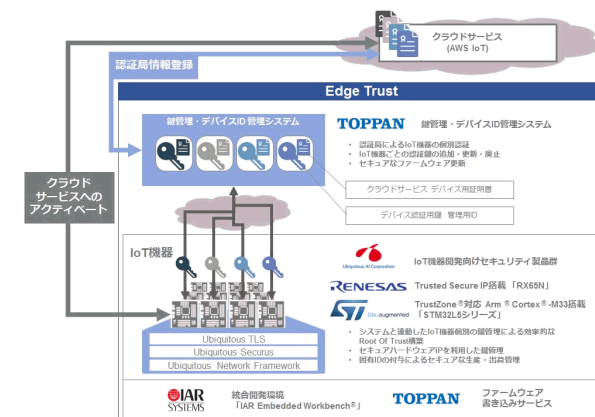
- ・ 車載機器関連、デジタルイメージング関連の既存顧客からのロイヤルティ売上を計上、車載機器関連では新規案件で大口の前払いロイヤルティ売上を獲得
- ・ スマートエネルギー関連の既存顧客からの契約時一時金売上を計上

■ 取組方向性

- ・ 「Edge Trust」を中心に、IoTセキュリティ分野での事業展開を加速するため半導体デバイスからクラウドまでの幅広い分野のパートナーとの連携を強化
- ・ 車載機器における、セキュリティ保護されたデジタルコンテンツ伝送需要の高まりに対応する「HDCP/DTCP」「Securus」ビジネスの拡大



(注) グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、コネクティビティ & セキュリティ関連のみの売上・利益です。



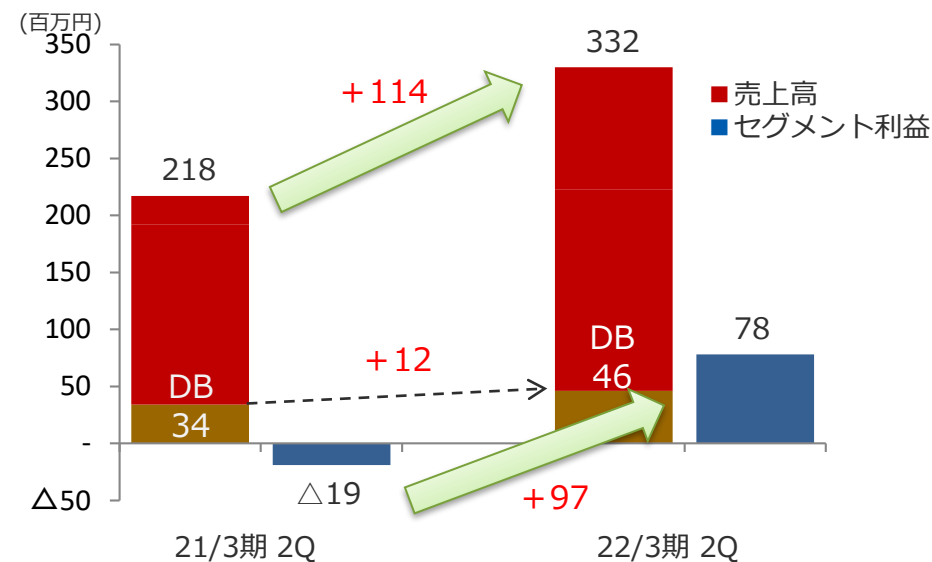
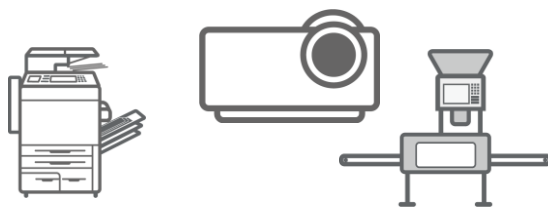
ソフトウェアプロダクト事業 データベース関連

■ 当四半期概況

- 産業機器等の既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上

■ 取組方向性

- 既存顧客のサポートによる安定収益の確保
- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器等に向けた拡販



(注) グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、データベース関連のみの売上です。

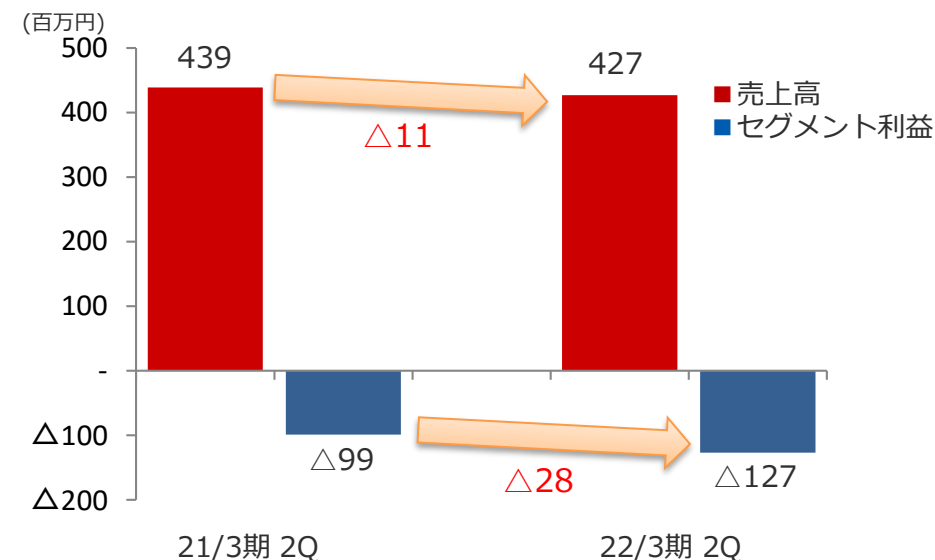
ソフトウェアディストリビューション事業

■ 当四半期概況

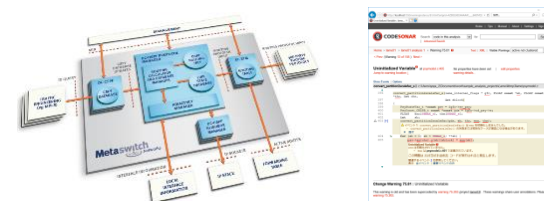
- BIOS製品：
PC等関連製品の既存顧客から「InsydeH2O® *1」のロイヤルティ売上等を計上
- 品質向上支援ツール製品：
車載機器等の既存顧客から「CodeSonar *2」のライセンス売上等を計上
- ワイヤレス製品：
車載機器等の既存顧客から「Blue SDK *3」のロイヤルティ売上等を計上
- AIソリューション製品：
産業機器の既存顧客から「Neutrino™ *4」のライセンス売上等を計上
- その他：
多数の取扱い製品より、新規、既存顧客からの売上を計上

■ 取組方向性

- コロナ禍によるニーズの変化に対応した製品・技術の発掘
- 市場性のある海外ベンダーの商権の獲得
- 先期開発・獲得した新規商材の販売強化
- 年間利用ライセンス契約により収益安定への貢献度が高いソフトウェア品質向上支援等のツール製品を重点的に販売促進



(注) 前年同期のセグメント利益は、比較利便性を考慮し、のれん償却前営業利益の増減を表示しています。



- *1 InsydeH2O®: 「EFI/UEFI」仕様を実装したC言語ベースBIOS
- *2 CodeSonar: ソフトウェアの動作不具合、脆弱性をソースコードのコンパイル時に静的解析し、バグを検出するツール
- *3 BlueSDK: Bluetoothプロトコルスタック
- *4 Neutrino™: ディープラーニングモデル自動最適化・圧縮ソフトウェア

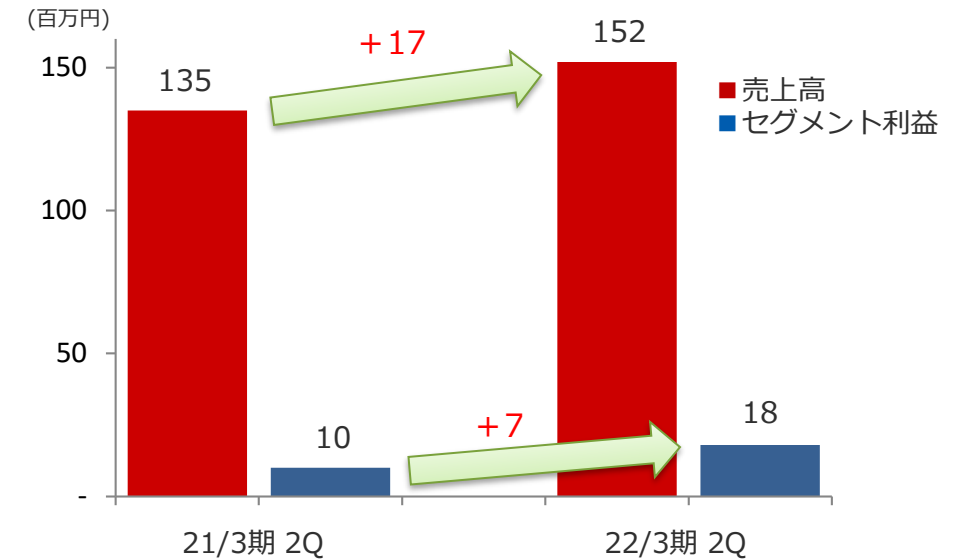
ソフトウェアサービス事業

■ 当四半期概況

- ・ 既存顧客からの各種受託開発売上を計上
- ・ データコンテンツ「YOMI」に関する車載機器向けを中心としたライセンス使用料売上等を計上

■ 取組方向性

- ・ 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的な確保と、協業提案による新たな取り組み
- ・ 既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現



(注) 前年同期のセグメント利益は、比較利便性を考慮し、のれん償却前営業利益の増減を表示しています。



YOMIデータの活用例：アーティスト名ソート

アーティスト表記	YOMI
さだまさし	サガマサシ
サザンオールスターズ	サザンオールスターズ
L'Arc-en-Ciel	ラルクアンシエル
松任谷由実	マツトウヤユミ

アーティスト表記でソート		YOMIでソート	
ソート順位	アーティスト表記	ソート順位	YOMI
1	L'Arc-en-Ciel	1	サザンオールスターズ
2	サザンオールスターズ	2	さだまさし
3	さだまさし	3	松任谷由実
4	松任谷由実	4	L'Arc-en-Ciel

トピックス

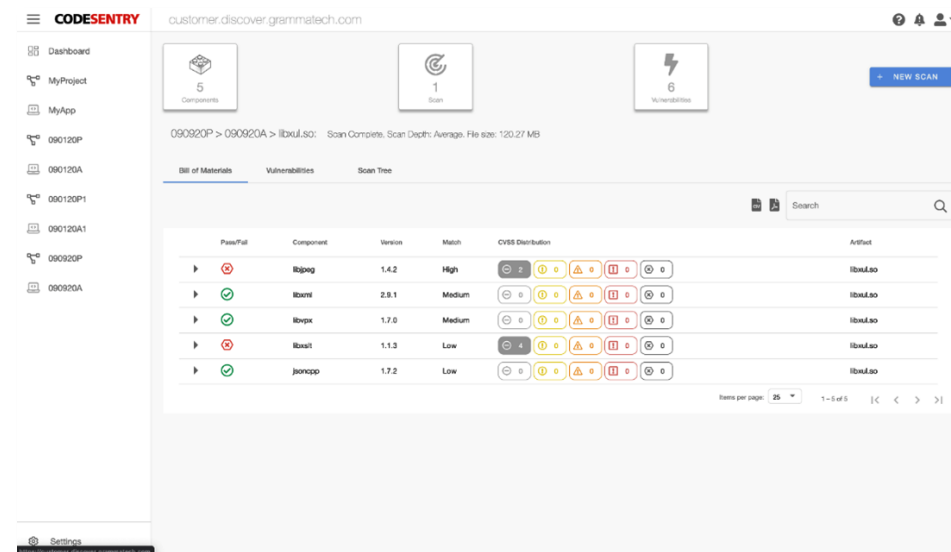
「CodeSentry」 提供開始 (9/1)

バイナリファイルに含まれるOSSコンポーネントとその脆弱性を自動検出

ソフトウェア開発で利用されるバイナリ形式のソフトウェアコンポーネント内のオープンソースやその脆弱性を解析し、安全なソフトウェア開発を実現するソリューション

■特長

- ソースコード不要。バイナリファイル用SCA (Software Composition Analysis : ソフトウェアコンポジション解析) ソリューション
- ソフトウェア内のオープンソースコンポーネントを高精度に検出してソフトウェア部品表 (SBOM) を作成
- 独自のバイナリ解析技術でゼロデイ脆弱性も検出
- 自社開発ソフト、ツール類の解析または社内のセキュリティ対策として業務で利用しているツールに含まれるオープンソースコンポーネントの把握にも利用可能



Pass/Fail	Component	Version	Match	CVEs Distribution	Artifact
▶	libpng	1.4.2	High	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	libpng
▶	libxml	2.9.1	Medium	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	libxml
▶	libjpeg	1.7.0	Medium	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	libjpeg
▶	libxslt	1.1.3	Low	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	libxslt
▶	libz	1.2.2	Low	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	libz

CodeSentryのレポートイメージ

「Edge Trust」のセキュリティコンポーネント、 PSA Certified™の認証を取得 (8/25)

組込みデバイス向けミドルウェアとして日本初

日本初のPSA Certified™ 評価機関ECSEC Labによる取得第一号に

IoT製品開発者は、PSA Certified™認証されたミドルウェアで構成されるEdge Trustを使用し、セキュリティレベルが担保されたデバイスのライフサイクルマネジメントを行うことで、複雑なセキュリティの実装と検証による負担を大幅に軽減可能

■ PSA Certified™認証とは

- 接続されたIoTデバイスを保護するための「Platform Security Architecture (PSA)」フレームワークに準拠していることを評価、認証する制度

■ PSA Certified™取得の意義

- Edge Trustのセキュリティコンポーネントである組込みデバイス向けミドルウェアについて、これがPSAという明確なガイドラインに準じたソリューションであることが、ECSEC Labという第三者機関により証明された



Appendix

2022年3月期 第2四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第2四半期	8月25日	■「Edge Trust」のセキュリティコンポーネント、組込みデバイス向けミドルウェアとして日本初となるPSA Certified™の認証を取得 ～日本初のPSA Certified™ 評価機関ECSEC LabによるPSA Certified™取得第一号に～
	9月 1日	■ユビキタスAI、バイナリソフトウェアコンポジション解析ソリューション「CodeSentry」を9月1日に提供開始 ～バイナリファイルに含まれるOSSコンポーネントとその脆弱性を自動で検出～
第3四半期 (参考)	10月12日	■車載Android™機器向けAutomotive-Grade Bluetoothプロトコルスタック「Blue SDK FUSION」を10月12日に提供開始 ～Android Open Source ProjectベースでAutomotive-Gradeのアプリケーションを実現～

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation